

支店長の わがまち紹介 第87回



鹿島港を中心とした鹿島臨海工業地帯

神 栖 市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆様との密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県神栖市です。神栖支店長が神栖市長 石田進氏にお話を伺いました。

神栖市は第39回(2016年10月)の本コーナーでご紹介させていただきました。改めまして、神栖市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年7月30日)

■ 産業活力にあふれた魅力あふれるまち

世界有数の掘込式港湾である鹿島港を有する鹿島臨海工業地帯が所在する神栖市では、石油精製や石油化学、鉄鋼などの基礎素材産業をはじめとする180社余りの企業が生産活動を行っています。

配合飼料の製造量は全国第1位(港湾別)を誇るほか、製造品出荷額は1兆4,900億円で茨城県第1位、その額は県全体の約12%にのびります。

農業ではピーマンの出荷量が全国第1位、漁業では波崎漁港における水揚げ量が県内第1位です。特にさば漁は、全国でも有数の水揚量であることから、水産加工業も盛んであり、輸出も盛んに行われています。

また、本市は「住みよさランキング2020」※において住みよさランキング県内第5位、財政健全度ランキング県内第1位と、将来においても安心して暮らせる魅力あふれるまちです。



神栖市長 石田 進氏



神栖支店長 井ノ崎 昭

■ スポーツタウン日本一を目指して

本市は天然芝と人工芝の官民合わせ約100面以上のサッカー場を有することから、年間約30万もの人が訪れるサッカー合宿の一大拠点となっています。

また、昨年の茨城国体では、神之池がカーヌー競技の会場となり、その素晴らしい環境をカーヌー協会の会長にも絶賛して頂きました。来年に開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でも、チュニジアの事前キャンプ地となることが内定しています。

さらに、市内では日常的にグラウンドゴルフが行われ、多くの高齢者が元気に参加しています。

参加者の中には100歳を迎えた方もいるなど、グラウンドゴルフは地域交流に役立つだけでなく、健康促進にもつながっています。そのため、今年度は新たなグラウンドゴルフ場も整備する予定です。今後は、サッカーだけでなく、カヌーやグラウンドゴルフでも聖地と呼ばれるまちにしたいと考えています。

昨年は、BCリーグに加入した茨城アストロプラネッツやプロバスケットボールチーム茨城ロボッツとフレンドリータウン協定を締結しました。

そのほか、キャッチコピー「スポーツするなら神栖でしょ!!」をもとに、スポーツをする方を支えるため、アスリート向けの料理レシピ集を作成したり、スポーツ教室やトレーナーセミナーを実施することで、スポーツによるまちづくりを進め、市民や来訪者の健康促進につなげていきたいと思えます。



神之池で開催されたカヌー競技

■ 息栖神社を中心に、歴史観光でにぎわいづくり

本市に所在する息栖神社は、鹿島神宮（鹿嶋市）香取神宮（千葉県香取市）とともに東国三社と呼ばれています。江戸時代、「東国三社巡り」は「お伊勢参りの後の三社参り」と呼ばれ、関東以北の人々は伊勢神宮に参拝後、「下三宮巡り」と称してこの三社を参拝したと伝えられています。

東国三社は、所在地を線で結ぶと二等辺三角形になる神秘的な配置であることから、近年では、関東最強のパワースポットとも言われ、人気が高まっています。

そのため、神栖市、鹿嶋市、香取市の3市で協働し合い、今後はさらに東国三社を盛り上げていくことを約束しました。ぜひ、新たな観光プランを楽しみにお待ちください。

息栖神社は、パワースポットであるだけでなく、

交通・舟の神としてもご利益が高いと称されています。また、訪れる方は自動車や大型バスでの訪問が多いため、新たに、普通車50台、大型バス4台が駐車可能な約4,200㎡の駐車場を整備することにしました。

今後、さらにまちを活性化させるため、「神の栖む」場所に所在する息栖神社と神之池や夏に賑わいを見せる海水浴場、鹿島臨海工業地帯の夜景を織り混ぜた周遊プランなどで、PRに努めてまいります。



東国三社のひとつ息栖神社

■ コウノトリが飛来する子育てのまち

新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ最近の市内企業の状況は、依然と比べて若干変化した部分もありますが、基本的に人手不足感があり、働き手を求めています。

そのため、本市では、若年世代が住みやすい環境を作るため、子育て応援、若年世代の移住・定住促進に取り組んでいます。

まず、昨年6月に子育て世代包括支援センターを開設しました。保健師や子育てコンシェルジュなどの専門職を配置し、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援に取り組んでいます。

また、子育て応援ギフト事業として、妊娠32週以降の妊婦または出生届を提出した保護者に対しては、1万5,000円分の育児補助となるグッズを選べる「子育て応援ギフトカタログ」を支給しています。

さらに、就学予定児の保護者に対しては、小学校入学に役立つ商品やサービスなどを扱う市内の協賛店で使用可能な3万円分の「子育て応援券」を支給しています。

この事業は、子育て世代の経済的負担を軽減するだけでなく、市内の各商店が協賛店となることで、地域の活性化にもつながっています。

さらに、本市は、茨城県立神栖高校、茨城県立波崎高校および茨城県立波崎柳川高校と、包括連携協定を締結しました。今後、3校と協力しながら、地域の未来を担う人材を地域で育てることで、魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。

そのほか、本市では、20代～40代前半で家を建てる人が増加していることから、昨年まで、最大55万円を助成する「若年世帯住宅取得補助金」を実施してきました。昨年は消費税増税前の駆け込み需要も重なったためか、申請件数も多く大変好評でした。

今年度は、さらに要件を緩和し、加算内容も拡充した「かみす子育て住まい給付金」を創設し、最大100万円の助成を実施しています。問い合わせも増加しており、これまで以上の若年層の移住・定住促進を期待しています。

近年、本市にコウノトリが飛来するようになりました。ご存じのように、コウノトリは「赤ちゃんを運んでくる」



子育て応援ギフトカタログ

イメージがあるとされています。本市はコウノトリと一緒に子育てする若者たちを応援する、子育て日本一のまちを目指してまいります。

ぜひ、本市で暮らし、住んで良かったと、実感していただきたいと思います。

■ ふるさとづくり基金でさらなる魅力づくり

私が市長に就任する前年、本市のふるさと納税の寄付金額は、約2,500万円でした。しかし、昨年度は約2億7,000万円となり、この2年で10倍以上に増加しており、収支についても初めて黒字となりました。

新型コロナウイルス感染症関連の支援では、ふるさと納税の収入を積み上げた「ふるさとづくり基金」も一部使用しました。今後は本市のさらなる魅力づくりに活用することを考えています。

その1つが、地域ポイントの試験的運用です。地域ポイントとは、行政の事業に協力いただいた

方に対し、地域内店舗で利用できるポイントを付与することで、行政事業への積極的参加促進と、地域事業者支援を同時に図るもので、多くの自治体で実施されています。本市においても、このモデルを試験的に導入し、その効果を検証してみたいと考えています。

■ コミュニティづくりでつながりを大切に

本市の中心部は都市化が進み、住民も増えていきます。しかし、地区に入らない転入者が増えていきます。近年、生活様式や生活意識が多様化する中で、近所同士の身近なつながりや支え合いが希薄となってきており、日頃の防犯や災害時における地域のコミュニティが非常に大切であると感じています。

そのようなことから私は、このままではいけないと痛感し、本市に所在する8つの中学校区で、新しいコミュニティづくりに挑戦したいと考えています。単なる情報通達や交渉などのコミュニティではなく、有事の際に市と防災士、地域の区長が連携できる組織づくりを考えています。

既に神栖四中学区にはコミュニティ協議会ができているため、残り7つの中学校区に作るための準備として、各区長さんへの説明等を進めています。今後は防災士を含めた具体的な話し合いを行い、来年の4月から、順次スタートして参ります。

■ 筑波銀行に期待することをお聞かせください

地域貢献の中で、学校に必要な教材などをご提供いただき感謝しています。小・中学校時代は子供たちが最も成長する時期で、保護者も地元を理解するチャンスの時です。そのような時期に地元の金融機関に大きな貢献をしていただけたのは、本当にありがたいと感じています。

本市はこれまで独自に自治金融に50%の利子補給を行ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、企業が苦境に立たされているため、3年間無利子になるよう補助を拡大しました。また、茨城県パワーアップ融資においても、県の補助と合わせて信用保証料が無料となるようにしました。

しかし、この後が大事です。金融機関の皆様もご苦労が多いと思いますが、ぜひ、懸命に頑張っている本市の企業の下支えをお願いします。

写真提供：神栖市